

# 平成 17 年度 第 4 1 回秋田県病院薬剤師会総会 並びに特別講演会

日 時 : 平成 17 年 5 月 21 日 ( 土 ) ~ 22 日 ( 日 )

場 所 : 丸富ホテル

〒018 2303 秋田県山本郡山本町森岳字木戸沢 115

TEL 0185-83-2311 FAX 0185-83-4576

## 日 程

5 月 21 日 ( 土 )

14 : 30 受付開始

15 : 00 平成 17 年度第 41 回秋田県病院薬剤師会総会

16 : 00 秋田県病院薬剤師会賞表彰式

16 : 30 特別講演

座 長 秋田県病院薬剤師会 会長 山先 滋 先生

『 NST と薬剤師 』

( 医 ) 舟山病院 薬剤科 倉本 敬二先生

18 : 30 懇親会および新入会員紹介

5 月 22 日 ( 日 )

8 : 15 ワークショップ

『 病院実務実習の現状と課題 』

座 長 秋田県病院薬剤師会 副会長 安保 忠明先生  
3 施設から発表

9 : 45 記念写真、散会

# 平成17年度 第41回秋田県病院薬剤師会総会報告

日時：平成17年5月21日(土)・22日(日)

場所：丸富ホテル 秋田県山本郡山本町森岳字木戸沢115

## [第1日目]

第41回秋田県病院薬剤師会総会は、平成17年5月21日午後3時より田口勲先生(山本組合総合病院)の総合司会で開催され、安保忠明先生(秋田組合総合病院)による開会の辞の後、山先滋県病薬会長(市立秋田総合病院)による挨拶、渡辺勝宏県薬会長による祝辞、続いて祝電披露等が行われた。

### (会長挨拶)

山先会長は、医療の現場において、医療の質と安全の確保に向けて薬剤師に対する期待は大きくなっている。薬剤師の人員配置基準、診療報酬上の評価の問題に対し、日病薬と連携を取りながら最大限頑張っていかなければならないと述べられた。また、平成18年度から薬学教育6年制に移行することにより、病院実務実習でのカリキュラムや受け入れ体制も充実させなければならずと述べられた。

### (祝辞)

渡辺勝宏県薬会長からは、平成18年度からの薬学教育6年制の導入により、指導的立場となる現場の薬剤師は、日々の業務内容を充実し、それにふさわしい人材となるべく一層の努力をしていく必要がある。また、県薬と病薬が共に連携し県民医療に尽くさなければならずと述べられました。

### (議長選出)

議長には鈴木幸造先生(北秋中央病院)が選出され、総会出席者数50名、委任者数303名の合計353名により、本会の成立が宣言された。

### (議事録署名人選出)

議事録署名人には戸嶋志穂先生(中通総合病院)、小林将人先生(市立秋田総合病院)が選出された。

### (議事)

#### 報告事項

第37回日病薬通常代議員会報告(秋田組合総合病院、安保忠明副会長)並びに実務担当者連絡会報告(金病院、進藤美人先生)

平成16年度庶務報告(市立秋田総合病院、南雲徳昭先生)並びに生涯研修報告(市立秋田総合病院、宮腰都津子先生)

平成16年度決算報告(中通総合病院、菅原信幸副会長)並びに会計監査報告(本荘第一病院、佐々木のり子先生)

その他としては、病薬連盟担当の佐々木吉幸先生(秋田赤十字病院)から2年後の参院選において藤井基之氏に投票するよう協力要請があった。

鈴木敏夫先生(秋田大学医学部付属病院)より昨年10月秋田市にて開催された第43回日本薬学会東北支部大会の報告があった。

以上の報告について、すべて拍手により承認された。

## 協議事項

平成17年度事業計画案（山先滋会長）並びに平成17年度予算案（菅原信幸副会長）次期開催地として中央地区が了承され、開催地担当者として菅原信幸副会長より挨拶があった。  
質疑応答

（質問）鈴木敏夫先生（秋田大学医学部附属病院）より「事業計画」4.長期実務実習受入体制の整備について、1名あたりの受入報酬について

（返答）山先滋会長より受入体制については、日病薬と連携して検討中  
受入報酬については、現在未定で検討中である。

以上、満場一致により承認、可決され議事無事終了した。

藤原斉理事（山本組合総合病院）により閉会の辞があり、総会が終了した。

次に、平成17年度秋田県病院薬剤師会賞表彰式が行われた。

受賞者 笹尾 徹朗 先生（前秋田組合総合病院薬剤長）

受賞者 齋藤 俊一 先生（前秋田社会保険病院薬剤部長）

受賞者 柏谷 武志 先生（前秋田赤十字病院薬剤部）

受賞者 富野 昭子 先生（前秋田大学医学部附属病院薬剤部）

引き続いて午後4時35分より、特別講演が山先滋会長を座長に行われ、（医）舟山病院 薬剤科倉本敬二先生より「NSTと薬剤師」と題してご講演頂いた。

そのあと行われた懇親会は、高橋幸先生（山本組合総合病院）の司会により進められ、恒例の新人紹介等が行われ大いに盛り上がり1日目の終了となった。



## [第2日目]

2日目の8時15分より行われたワークショップ「病院実務実習の現状と課題」では、安保副会長を座長に、多田均先生（秋田大学医学部附属病院）、宮腰都津子先生（市立秋田総合病院）、佐々木のり子先生（本荘第一病院）の3施設からの発表が行われた。

ワークショップ終了後閉会となり、最後に例年通りに、記念撮影を行い散会した。



# 平成17年度 事業計画

## 1．病院薬剤師配置基準の見直しに向け日病薬との連携強化

平成16年に予定されていた「病院における薬剤師の人員配置基準に関する検討会」は開催されず、議論の場を社会保障審議会医療部会に移して平成17年中に議論されることになった。日病薬は“1病棟に1人薬剤師の配置”、“1人薬剤師の解消”を訴えることにしており、そのための資料作成等に協力し連携を強化していきたい。

## 2．専門薬剤師の育成に対する取り組み

平成16年度には「癌薬物療法研修会」を3回開催した。毎回約100名の参加があった。今年度さらに6月と9月に研修会の開催を予定している。がん専門薬剤師について日病薬は、日本癌治療学会や日本臨床腫瘍学会と協議しながら制度を検討しており、認定を得るためには高いハードルを越えなければならないものと予想される。しかし、患者に良質で安全な医療を提供することを目的に、また高い薬物療法の知識を得るため、研修会には多数参加していただきたい。

## 3．生涯教育・研修活動の推進と認定薬剤師の取得

来年度の入学者から、薬剤師となるためには6年間の薬学教育が必要とされる。病院や保険薬局における長期実務実習において、指導薬剤師の配置は必須でありそのためにも最低限認定薬剤師を取得していただきたい。

なお、今年度も資質向上を目的に臨床薬学研究会、生涯教育研修会等を開催したい。

## 4．長期実務実習受入体制の整備

薬学教育改革に伴う長期実務実習については、日病薬が進める「ふるさと実習」、「グループ実習」に対処するため秋田県内を8ブロックに分け検討している。しかし、各ブロックにおいてグループ実習が本当に可能か、いかなる問題点があるのか等については実際に「グループ実習」を実施し確認する必要がある。日病薬と連携しながら受入体制を整備していきたい。

## 5．薬剤管理指導業務の拡大とプレアボイド報告の推進

平成16年度は新たな届出施設はなかったが、薬剤管理指導業務の実施率向上とともに、患者に満足感を与えるよう指導内容の充実を図る。また、年に1回開催したプレアボイド学術講演会は昨年度終了し成果も得られたが、プレアボイド報告については一施設一報告をめざし、発表の場も考えていきたい。

## 6．薬 - 薬連携の推進

保険薬局との情報の共有を図る目的で、県薬から各病院に対し「お薬手帳」を配布してもらうことになった。入院中における患者の特記事項、退院処方の内容等を「お薬手帳」に記載することにより、保険薬局においても正しく服薬指導を実施されるよう連携を図っていきたい。

## 7．療養病床委員会の設置

医療制度の改革に伴い、療養病床数は増加する傾向にある。療養病床における適正な薬剤師業務並びに薬剤管理指導業務実施率の向上について検討する。